



エンドユーザ クレデンシャルの取得

この章は、次の項で構成されています。

- [エンドユーザ クレデンシャルの取得の概要 \(1 ページ\)](#)
- [認証に関するベスト プラクティス \(2 ページ\)](#)
- [認証の計画 \(3 ページ\)](#)
- [認証レلم \(15 ページ\)](#)
- [認証シーケンス \(37 ページ\)](#)
- [認証の失敗 \(39 ページ\)](#)
- [資格情報 \(47 ページ\)](#)
- [認証に関するトラブルシューティング \(49 ページ\)](#)

エンドユーザ クレデンシャルの取得の概要

サーバタイプ/レ ルム	認証方式	サポートされるネットワークプロ トコル	注記 (Notes)
Active Directory	Kerberos NLMSSP 基本	HTTP、HTTPS ネイティブ FTP、FTP over HTTP SOCKS (基本認証)	Kerberos は標準モードでのみ サポートされます。クラウド コネクタモードではサポート されません。
LDAP	基本	HTTP、HTTPS ネイティブ FTP、FTP over HTTP SOCKS	—

認証タスクの概要

手順	タスク	関連項目および手順へのリンク
1	認証レルムを作成する。	<ul style="list-style-type: none"> • Active Directory 認証レルムの作成 (NTLMSSP および基本) (21 ページ) • LDAP 認証レルムの作成 (24 ページ)
2	グローバル認証を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> • グローバル認証の設定 (30 ページ)
3	外部認証を設定する。 外部 LDAP または RADIUS サーバからユーザを認証できます。	<ul style="list-style-type: none"> • 外部認証 (16 ページ)
4	(任意) 追加の認証レルムを作成して順序を決定する。 使用する予定の各認証プロトコルとスキームの組み合わせに対して、少なくとも1つの認証レルムを作成する。	<ul style="list-style-type: none"> • 認証シーケンスの作成 (38 ページ)
5	(任意) クレデンシャルの暗号化を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> • クレデンシャル暗号化の設定 (48 ページ)
6	認証要件に基づいてユーザとクライアントソフトウェアを分類する識別プロファイルを作成する。	<ul style="list-style-type: none"> • ユーザおよびクライアントソフトウェアの分類
7	識別プロファイルの作成対象となったユーザとユーザグループからの Web 要求を管理するポリシーを作成する。	<ul style="list-style-type: none"> • ポリシーによる Web 要求の管理: ベストプラクティス

認証に関するベスト プラクティス

- できる限り少数の Active Directory レルムを作成します。多数の Active Directory レルムを作成すると、認証で追加のメモリが必要になります。
- NTLMSSP を使用する場合は、Web セキュリティ アプライアンスまたはアップストリーム プロキシサーバを使用してユーザを認証します (両方は使用できません)。(Web セキュリティ アプライアンスを推奨)
- Kerberos を使用している場合は、Web セキュリティ アプライアンスで認証します。
- 最適なパフォーマンスを得るには、1つのレルムを使用して同じサブネット上のクライアントを認証します。

- 一部のユーザエージェントには、通常の動作に悪影響を及ぼすマシン クレデンシャルや認証失敗の問題があることが判明されています。これらのユーザエージェントとの認証をバイパスする必要があります。[問題のあるユーザエージェントの認証のバイパス \(40 ページ\)](#) を参照してください。

認証の計画

- [Active Directory/Kerberos \(4 ページ\)](#)
- [Active Directory/基本 \(5 ページ\)](#)
- [Active Directory/NTLMSSP \(6 ページ\)](#)
- [LDAP/基本 \(7 ページ\)](#)
- [ユーザの透過的識別 \(7 ページ\)](#)

Active Directory/Kerberos

明示的な転送	透過、IPベースのキャッシング	透過、Cookieベースのキャッシング
<p>利点：</p> <ul style="list-style-type: none"> • NTLM と比べた場合、パフォーマンスと相互運用性が向上 • ドメインに参加している Windows クライアントと非 Windows クライアントの両方と連携 • すべてのブラウザ、および他のほとんどのアプリケーションでサポートされている • RFC ベース • 最小限のオーバーヘッド • HTTPS (CONNECT) 要求で使用できる • パスフレーズが認証サーバに送信されないため、より安全である • ホストや IP アドレスではなく、接続が認証される • クライアントアプリケーションが Web セキュリティアライアンスを信頼するように設定されている場合に、Active Directory 環境で真のシングルサインオンを実現 	<p>利点：</p> <ul style="list-style-type: none"> • NTLM と比べた場合、パフォーマンスと相互運用性が向上 • ドメインに参加している Windows クライアントと非 Windows クライアントの両方と連携 • すべての主要ブラウザで使用できる • 認証をサポートしていないユーザーエージェントを使用する場合、ユーザーはサポートされるブラウザで最初に認証されるだけでよい • オーバーヘッドが比較的低い • ユーザーが以前に HTTP 要求で認証されている場合は、HTTPS 要求で使用できる 	<p>利点：</p> <ul style="list-style-type: none"> • NTLM と比べた場合、パフォーマンスと相互運用性が向上 • ドメインに参加している Windows クライアントと非 Windows クライアントの両方と連携 • すべての主要ブラウザで使用できる • 認証が、ホストや IP アドレスではなく、ユーザーに関連付けられる <p>欠点：</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cookie はドメイン固有であるため、新規の各 Web ドメインで認証プロセス全体が必要 • Cookie をイネーブルにする必要がある • HTTPS 要求で使用できない

Active Directory/基本

明示的な転送	透過、IP ベースのキャッシング	透過、Cookie ベースのキャッシング
<p>利点：</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべてのブラウザ、および他のほとんどのアプリケーションでサポートされている • RFC ベース • 最小限のオーバーヘッド • HTTPS (CONNECT) 要求で使用できる • パスフレーズが認証サーバに送信されないため、より安全である • ホストや IP アドレスではなく、接続が認証される • クライアントアプリケーションが Web セキュリティアプライアンスを信頼するように設定されている場合に、Active Directory 環境で真のシングルサインオンを実現 <p>欠点：</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての要求でパスフレーズがクリアテキスト (Base64) として送信される • シングルサインオンなし • 中程度のオーバーヘッド：新規の接続ごとに再認証が必要 • 主に Windows および主要ブラウザでのみサポート 	<p>利点：</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての主要ブラウザで使用できる • 認証をサポートしていないユーザーエージェントを使用する場合、ユーザはサポートされるブラウザで最初に認証されるだけでよい • オーバーヘッドが比較的低い • ユーザが以前に HTTP 要求で認証されている場合は、HTTPS 要求で使用できる <p>欠点：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 認証クレデンシャルが、ユーザではなく、IP アドレスに関連付けられる (Citrix および RDP 環境では使用できず、ユーザが IP アドレスを変更した場合も使用できない) • シングルサインオンなし • パスフレーズがクリアテキスト (Base64) として送信される 	<p>利点：</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての主要ブラウザで使用できる • 認証が、ホストや IP アドレスではなく、ユーザに関連付けられる <p>欠点：</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cookie はドメイン固有であるため、新規の各 Web ドメインで認証プロセス全体が必要 • Cookie をイネーブルにする必要がある • HTTPS 要求で使用できない • シングルサインオンなし • パスフレーズがクリアテキスト (Base64) として送信される

Active Directory/NTLMSSP

明示的な転送	透過
<p>利点：</p> <ul style="list-style-type: none"> • パスフレーズが認証サーバに送信されないため、より安全である • ホストや IP アドレスではなく、接続が認証される • クライアントアプリケーションが Web セキュリティ アプライアンスを信頼するように設定されている場合に、Active Directory 環境で真のシングルサインオンを実現 <p>欠点：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 中程度のオーバーヘッド：新規の接続ごとに再認証が必要 • 主に Windows および主要ブラウザでのみサポート 	<p>利点：</p> <ul style="list-style-type: none"> • より柔軟性が高い <p>透過 NTLMSSP 認証は透過基本認証と似ています。ただし、Web プロキシはクライアントとの通信に、基本的なクリアテキストのユーザ名とパスワードではなく、チャレンジ/レスポンス認証を使用します。</p> <p>透過 NTLM 認証を使用する利点と欠点は、透過基本認証を使用する場合と同様です。ただし、透過 NTLM 認証には、パスワードが認証サーバに送信されないというさらなる利点があり、クライアントアプリケーションが Web セキュリティ アプライアンスを信頼するように設定されている場合はシングルサインオンを実現できます。</p>

LDAP/基本

明示的な転送	透過
<p>利点：</p> <ul style="list-style-type: none"> • RFC ベース • NTLM よりも多くのブラウザをサポート • 最小限のオーバーヘッド • HTTPS (CONNECT) 要求で利用できる <p>欠点：</p> <ul style="list-style-type: none"> • シングル サインオンなし • すべての要求でパスワードがクリアテキスト (Base64) として送信される <p>回避策：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 認証の失敗 (39 ページ) 	<p>利点：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 明示的な転送よりも柔軟。 • NTLM よりも多くのブラウザをサポート • 認証をサポートしていないユーザエージェントを使用する場合、ユーザはサポートされるブラウザで最初に認証されるだけでよい • オーバーヘッドが比較的低い • ユーザが以前に HTTP 要求で認証されている場合は、HTTPS 要求で利用できる <p>欠点：</p> <ul style="list-style-type: none"> • シングル サインオンなし • パスワードがクリアテキスト (Base64) として送信される • 認証クレデンシャルが、ユーザではなく、IP アドレスに関連付けられる (Citrix および RDP 環境では使用できず、ユーザが IP アドレスを変更した場合も使用できない) <p>回避策：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 認証の失敗 (39 ページ)

ユーザの透過的識別

従来、ユーザの識別および認証では、ユーザにユーザ名とパスワードの入力を求めています。ユーザが入力したクレデンシャルは認証サーバによって認証され、その後、Webプロキシが、認証されたユーザ名に基づいてトランザクションに適切なポリシーを適用します。

しかし、Webセキュリティ アプライアンスは、ユーザを透過的に認証するように設定することができます。つまり、エンドユーザにクレデンシャルを要求しません。透過的な識別では、別の信頼できるソースによってユーザが認証済みであると想定し、そのソースから取得したクレデンシャルを使用してユーザを認証して、適切なポリシーを適用します。

ユーザを透過的に識別して以下を実行する場合があります。

- ユーザがネットワーク上のプロキシの存在を意識しないように、シングルサインオン環境を構築する。
- エンドユーザに認証プロンプトを表示できないクライアントアプリケーションからのトランザクションに、認証ベースのポリシーを適用する。

ユーザの透過的識別は、Webプロキシがユーザ名を取得して識別プロファイル割り当ての方法にのみ影響を与えます。ユーザ名を取得して識別プロファイル割り当てた後、Webプロキシ

シは、識別プロファイルの割り当て方法に関係なく、通常どおり他のすべてのポリシーを適用します。

透過認証が失敗した場合、トランザクションを処理する方法を設定できます。ユーザにゲストアクセスを許可するか、またはユーザに認証プロンプトを表示することができます。

透過的ユーザ ID の失敗によりエンドユーザに認証プロンプトが表示され、ユーザが無効なクレデンシャルにより認証に失敗した場合、ユーザのゲストアクセスを許可するかどうかを選択できます。



- (注) 再認証をイネーブルにしたが、URL フィルタリングによってトランザクションがブロックされている場合、エンドユーザ通知ページが表示され、別のユーザとしてログインするオプションが提供されます。ユーザがリンクをクリックすると、認証を求めるプロンプトが表示されます。詳細については、[認証の失敗：異なるクレデンシャルによる再認証の許可 \(44 ページ\)](#) を参照してください。

透過的ユーザ識別について

透過的ユーザ識別は以下の方式で使用できます。

- [ISE によってユーザを透過的に識別 (Transparently identify users with ISE)] : Identity Services Engine (ISE) サービスがイネーブルの場合に使用可能 ([ネットワーク (Network)] > [Identity Services Engine])。これらのトランザクションの場合、ユーザ名と関連するセキュリティグループタグは Identity Services Engine サーバから取得されます。[ISE サービスを認証および統合するためのタスク](#) を参照してください。
- [ASA によってユーザを透過的に識別 (Transparently identify users with ASA)] : ユーザは、Cisco 適応型セキュリティ アプライアンスから受信した現在の IP アドレス対ユーザ名のマッピングによって識別されます (リモートユーザのみ)。このオプションは、AnyConnect Secure Mobility がイネーブルになっており、ASA と統合されている場合に使用できます。ユーザ名は ASA から取得され、関連するディレクトリグループは Web セキュリティ アプライアンスで指定された認証レルムまたはシーケンスから取得されます。[リモートユーザ](#) を参照してください。
- [認証レルムによってユーザを透過的に識別 (Transparently identify users with authentication realms)] : このオプションは、1 つ以上の認証レルムが、以下のいずれかの認証サーバを使用して透過的識別をサポートするように設定されている場合に使用できます。
 - Active Directory : NTLM または Kerberos 認証レルムを作成し、透過的ユーザ識別をイネーブルにします。また、Cisco Context Directory Agent などの Active Directory エージェントを個別に展開する必要があります。詳細については、[Active Directory による透過的ユーザ識別 \(9 ページ\)](#) を参照してください。
 - LDAP : eDirectory として設定した LDAP 認証レルムを作成し、透過的ユーザ識別をイネーブルにします。詳細については、[LDAP による透過的ユーザ識別 \(10 ページ\)](#) を参照してください。

AsyncOS for Web は eDirectory または Active Directory エージェントと定期的に通信して、認証されたユーザ名と現在の IP アドレスを照合するマッピングを保守します。

Active Directory による透過的ユーザ識別

Active Directory は、Web セキュリティ アプライアンスなどの他のシステムから簡単に照会できる形式でユーザ ログイン情報を記録しません。Cisco Context Directory Agent (CDA) などの Active Directory エージェントは、認証済みユーザの情報を Active Directory セキュリティ イベント ログで照会する必要があります。

AsyncOS for Web は Active Directory エージェントと通信して、IP アドレス対ユーザ名のマッピングのローカル コピーを保守します。AsyncOS for Web は IP アドレスをユーザ名に関連付ける必要がある場合、最初にマッピングのローカルコピーをチェックします。一致が見つからない場合、Active Directory エージェントに照会して一致するものを見つけます。

Active Directory エージェントのインストールと設定については、以下の「Web セキュリティ アプライアンスに情報を提供する Active Directory エージェントの設定」を参照してください。

Active Directory を使用してユーザを透過的に識別する場合は、以下を考慮してください。

- Active Directory による透過的ユーザ識別は、NTLM または Kerberos 認証スキームでのみ機能します。Active Directory インスタンスに対応する LDAP 認証レムでは使用できません。
- 透過的ユーザ ID は Active Directory エージェントがサポートする Active Directory のバージョンで動作します。
- 高可用性を実現するために、別のマシンに Active Directory エージェントの 2 番目のインスタンスをインストールできます。その場合、各 Active Directory エージェントは、他方のエージェントとは別個に、独自の IP アドレス対ユーザ名 マッピングを保持します。AsyncOS for Web は、プライマリ エージェントに対する ping の試行が 3 回失敗した後にバックアップとして Active Directory エージェントを使用します。
- Active Directory エージェントは、Web セキュリティ アプライアンスと通信する際にオンデマンドモードを使用します。
- Active Directory エージェントは、Web セキュリティ アプライアンスにユーザのログアウト情報をプッシュします。ただし、ユーザのログアウト情報が Active Directory セキュリティ ログに記録されないことがあります。これは、クライアント マシンがクラッシュしたり、ユーザがログアウトせずにマシンをシャットダウンした場合に発生します。ユーザのログアウト情報がセキュリティ ログにないと、Active Directory エージェントは、IP アドレスがそのユーザに割り当てられていないことをアプライアンスに通知できません。これを回避するために、Active Directory エージェントからのアップデートがない場合に AsyncOS が IP アドレス対ユーザのマッピングをキャッシュしておく時間の長さを定義できます。詳細については、[CLI を使用した透過的ユーザ識別の詳細設定 \(12 ページ\)](#) を参照してください。
- Active Directory エージェントは、ユーザ名の一意性を確保するために、特定の IP アドレスからログインする各ユーザの sAMAccountName を記録します。
- クライアント マシンが Active Directory サーバに提供するクライアントの IP アドレスと Web セキュリティ アプライアンスは同一である必要があります。

- AsyncOS for Web はユーザが属する上位の親グループだけを検索します。ネストされたグループは検索しません。

Web セキュリティ アプライアンスに情報を提供する Active Directory エージェントの設定

AsyncOS for Web OS は、Active Directory から直接クライアントの IP アドレスを取得できないので、Active Directory エージェントから IP アドレス対ユーザ名のマッピング情報を取得する必要があります。

Web セキュリティ アプライアンスにアクセスでき、表示されるすべての Windows ドメイン コントローラと通信できるネットワーク上のマシンに、Active Directory エージェントをインストールします。最高のパフォーマンスを実現するために、このエージェントは Web セキュリティ アプライアンスに物理的にできるだけ近いところに配置する必要があります。小規模なネットワーク環境では、Active Directory サーバに直接 Active Directory エージェントをインストールすることもできます。



- (注) Web セキュリティ アプライアンスとの通信に使用される Active Directory エージェントのインスタンスは、シスコの適応型セキュリティ アプライアンスやその他の Web セキュリティ アプライアンスなど、他のアプライアンスもサポートできます。

Cisco Context Directory Agent の取得、インストール、および設定

Cisco Context Directory Agent のダウンロード、インストール、および設定に関する詳細については、http://www.cisco.com/en/US/docs/security/ibf/cda_10/Install_Config_guide/cda10.html を参照してください。



- (注) Web セキュリティ アプライアンスと Active Directory エージェントは、RADIUS プロトコルを使用して相互に通信します。アプライアンスとエージェントは、ユーザのパスワードを難読化するために同じ共有秘密キーを使用して設定する必要があります。その他のユーザ属性は難読化されません。

LDAP による透過的ユーザ識別

AsyncOS for Web は、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) レルムとして設定されている eDirectory サーバと通信し、IP アドレス対ユーザ名のマッピングを保守できます。eDirectory クライアントを介してログインする場合、ユーザは eDirectory サーバに対して認証されます。認証に成功すると、ログインしたユーザの属性 (NetworkAddress) としてクライアントの IP アドレスが eDirectory サーバに記録されます。

LDAP (eDirectory) を使用してユーザを透過的に識別する場合は、以下を考慮してください。

- eDirectory クライアントを各クライアントワークステーションにインストールし、エンドユーザがそれを使用して eDirectory サーバによる認証を受けるようにする必要があります。

- eDirectory クライアントのログインで使用する LDAP ツリーは、認証レルムに設定されている LDAP ツリーと同一である必要があります。
- eDirectory クライアントが複数の LDAP ツリーを使用する場合は、ツリーごとに認証レルムを作成し、各 LDAP 認証レルムを使用する認証シーケンスを作成します。
- eDirectory として LDAP 認証レルムを設定する場合は、クエリー クレデンシャルのバインド DN を指定する必要があります。
- eDirectory サーバは、ユーザのログイン時にユーザ オブジェクトの NetworkAddress 属性を更新するように設定する必要があります。
- AsyncOS for Web はユーザが属する上位の親グループだけを検索します。ネストされたグループは検索しません。
- eDirectory ユーザの NetworkAddress 属性を使用して、ユーザの最新のログイン IP アドレスを特定できます。

透過的ユーザ識別のルールとガイドライン

任意の認証サーバで透過的ユーザ ID を使用する場合は、以下のルールとガイドラインを考慮してください。

- DHCP を使用してクライアント マシンに IP アドレスを割り当てる場合は、Web セキュリティ アプライアンス上の IP アドレス対ユーザ名のマッピングが DHCP リースよりも頻繁に更新されるようにします。tuiconfig CLI コマンドを使用して、マッピングの更新間隔を更新します。詳細については、[CLI を使用した透過的ユーザ識別の詳細設定 \(12 ページ\)](#) を参照してください。
- IP アドレス対ユーザ名のマッピングが Web セキュリティ アプライアンス上で更新される前に、ユーザがマシンからログアウトし、別のユーザが同じマシンにログインした場合、Web プロキシは前のユーザをクライアントとして記録します。
- 透過的ユーザ識別に失敗した場合に Web プロキシがトランザクションを処理する方法を設定できます。ユーザにゲストアクセスを許可するか、または認証プロンプトをエンドユーザに強制的に表示することができます。
- 透過的ユーザ ID の失敗によりユーザに認証プロンプトが表示され、ユーザが無効なクレデンシャルにより認証に失敗した場合、ユーザのゲストアクセスを許可するかどうかを選択できます。
- 割り当てられた識別プロファイルが、ユーザが存在する複数のレルムを含む認証シーケンスを使用している場合、AsyncOS for Web はシーケンスで示される順序でレルムからユーザグループを取得します。
- ユーザを透過的に識別するように識別プロファイルを設定する場合、認証サロゲートは IP アドレスでなければなりません。別のサロゲートタイプを選択することはできません。
- ユーザの詳細なトランザクションを表示すると、透過的に識別されたユーザが [Web トラッキング (Web Tracking)] ページに表示されます。
- `%m` および `x-auth-mechanism` カスタム フィールドを使用して、透過的に識別されたユーザをアクセスログと WC3 ログに記録することができます。sso_tui のログエントリは、ユーザ名が、透過的ユーザ識別により認証されたユーザ名をクライアント IP アドレスと照合することによって取得されたことを示しています。(同様に、sso_asa の値は、ユーザがリモート ユーザであり、ユーザ名が AnyConnect Secure Mobility を使用して Cisco ASA から取得されたことを示しています)。

透過的ユーザ識別の設定

透過的なユーザの識別と認証の設定については、[エンドユーザ クレデンシャルの取得 \(1 ページ\)](#) に詳しく記載されています。基本的な手順は以下のとおりです。

- 認証レルムを作成して、順序付けます。
- 識別プロファイルを作成し、ユーザおよびクライアント ソフトウェアを分類します。
- 識別されたユーザとユーザ グループからの Web 要求を管理するポリシーを作成します。

CLI を使用した透過的ユーザ識別の詳細設定

AsyncOS for Web は以下の TUI 関連の CLI コマンドを備えています。

- **tuiconfig** : 透過的ユーザ識別に関連する詳細設定を設定します。バッチ モードを使用して、複数のパラメータを同時に設定できます。
 - **Configure mapping timeout for Active Directory agent** : AD エージェントからのアップデートがない場合に、AD エージェントによって取得された IP アドレスに対して、IP アドレス対ユーザのマッピングをキャッシュしておく時間の長さ (分単位)。
 - **Configure proxy cache timeout for Active Directory agent** : プロキシ固有の IP アドレス対ユーザのマッピングをキャッシュしておく時間の長さ (秒単位)。有効な値は 5~1200 秒です。デフォルト値および推奨値は 120 秒です。より低い値を指定すると、プロキシのパフォーマンスに悪影響を及ぼします。
 - **Configure mapping timeout for Novell eDirectory** : サーバからのアップデートがない場合に、eDirectory サーバから取得された IP アドレスに対して、IP アドレス対ユーザのマッピングをキャッシュしておく時間の長さ (秒単位)。
 - **Configure query wait time for Active Directory agent** : Active Directory エージェントからの応答を待機する時間の長さ (秒単位)。クエリーに要する時間がこのタイムアウト値を上回った場合、透過的ユーザ識別は失敗したと見なされます。これにより、エンドユーザが体験する認証遅延が限定されます。
 - **Configure query wait time for Novell eDirectory** : eDirectory サーバからの応答を待機する時間の長さ (秒単位)。クエリーに要する時間がこのタイムアウト値を上回った場合、透過的ユーザ識別は失敗したと見なされます。これにより、エンドユーザが体験する認証遅延が限定されます。

Active Directory の設定は、透過的ユーザ識別に AD エージェントを使用するすべての AD レルムに適用されます。eDirectory の設定は、透過的ユーザ識別に eDirectory を使用するすべての LDAP レルムに適用されます。

いずれかのパラメータの検証に失敗した場合は、どの値も変更されません。

- **tuistatus** : このコマンドには、以下のような AD 関連のサブコマンドがあります。
 - **adagentstatus** : すべての AD エージェントの現在のステータス、および Windows ドメイン コントローラとの接続に関する情報を表示します。
 - **listlocalmappings** : Web セキュリティ アプライアンスに保存されているすべての IP アドレス対ユーザ名のマッピングを、AD エージェントによって取得された順序で一

一覧表示します。このコマンドは、エージェントに保存されているエントリや、現在クエリーが進行中のマッピングを一覧表示しません。

シングルサインオンの設定

透過的にクレデンシャルを取得することにより、シングルサインオン環境を実現できます。透過的ユーザ識別は認証レールの設定項目の1つです。

Internet Explorer の場合は、リダイレクトホスト名として、完全修飾ドメイン名ではなく、(ドットを含まない) 短縮形のホスト名または NetBIOS 名を必ず使用してください。または、Internet Explorer の [ローカルイントラネット] ゾーンにアプライアンスのホスト名を追加することができます ([ツール] > [インターネット オプション] > [セキュリティ] タブ)。ただし、この操作をすべてのクライアントで実行する必要があります。これに関する詳細については、『[How do I properly set up NTLM with SSO \(credentials sent transparently\)?](#)』を参照してください。

Firefox およびその他の Microsoft 以外のブラウザでは、パラメータ `network.negotiate-auth.delegation-uris`、`network.negotiate-auth.trusted-uris`、`network.automatic-ntlm-auth.trusted-uris` を透過モードのリダイレクトホスト名に設定する必要があります。『[Firefox is not sending authentication credentials transparently \(SSO\)](#)』も参照してください。この[記事](#)には、Firefox パラメータの変更に関する一般情報が記載されています。

リダイレクトホスト名については、[グローバル認証の設定 \(30 ページ\)](#)、または CLI コマンド `sethostname` を参照してください。

ハイアベイラビリティ展開で Kerberos 認証を行うための Windows Active Directory におけるサービスアカウントの作成

Kerberos 認証でハイアベイラビリティに関する問題が発生している場合は、この手順を使用します。ハイアベイラビリティ展開で Kerberos 認証を使用するときに問題が発生する場所のシナリオは次のとおりです。

- ハイアベイラビリティのホスト名の `servicePrincipalName` は、Active Directory 内の複数のコンピュータアカウントに追加されます。
- Kerberos 認証は `servicePrincipalName` が Active Directory の1つのコンピュータアカウントに追加されている場合に機能します。異なるアプライアンスノードは Kerberos サービスチケットを復号化するために異なる暗号化文字列を使用するため、マスターノードが変更されるとハイアベイラビリティに影響する可能性があります。

始める前に

- ハイアベイラビリティで Kerberos 認証に使用するユーザ名を選択します。この目的のためだけに使用する新しいユーザ名を作成することをお勧めします。
- 既存のユーザ名を使用する場合には、次の設定を行います。
 - ユーザ名にパスワードがない場合は、パスワードを設定します。

- ユーザ アカウントのプロパティ ダイアログボックス ([Active Directory ユーザとコンピュータ (Active Directory users and computers)]) で、次のことを行います。

[ユーザは次回のログオン時にパスワード変更が必要 (User must change password at next logon)] チェック ボックスがオフになっていることを確認します。

[パスワードを無期限にする (Password Never Expires)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 1 [Active Directory ユーザとコンピュータ (Active Directory users and computers)] で新しいユーザ名を作成します。

- パスワードを指定します。
- [ユーザは次回のログオン時にパスワード変更が必要 (User must change password at next logon)] チェックボックスをオフにします。
- [パスワードを無期限にする (Password Never Expires)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 2 ハイアベイラビリティのホスト名の SPN が、作成または選択した Active Directory ユーザ オブジェクトに関連付けられているかどうかを確認します。SPN には、`http/` のプレフィックスが付けられ、その後にはアプライアンスのハイアベイラビリティのホスト名が付けられます。クライアントが、ホスト名を解決できることを確認します。

1. Windows の `setspn -q` コマンドを使用して、既存の関連付けをクエリーします。

例 : `setspn -q http/highavail.com`

この例では、`highavail.com` は、アプライアンスのハイアベイラビリティのホスト名です。

2. クエリの結果に応じて、SPN を削除するか、追加します。

クエリ結果	操作
「このようなSPNは見つかりませんでした。(No such SPN found.)」	<p>ハイアベイラビリティのホスト名の SPN を Active Directory ユーザ オブジェクトに関連付けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 次のように <code>setspn -s</code> コマンドを使用します。 <pre>setspn -s http/highavail.com hausername</pre> <p>この例で、<code>highavail.com</code> はアプライアンスのハイアベイラビリティのホスト名で、<code>hausername</code> は作成または選択したユーザ名です。</p>

クエリ結果	操作
<p>「既存のSPNが見つかりました。 (Existing SPN found!)」</p> <p>「共通名 (CN) は、作成または選択したユーザ名を示しています。 (The common name (CN) shows the user name created or chosen.)」</p> <p>「例: CN=hausername (Example: CN=hausername)」</p>	<p>Active Directory でこれ以上の作業は必要ありません。</p>
<p>「既存のSPNが見つかりました。 (Existing SPN found!)」</p> <p>「共通名 (CN) によって、作成または選択したユーザ名は表示されません。 (The common name (CN) does not show the user name created or chosen.)」</p>	<ol style="list-style-type: none"> SPN を削除します。 次のように <code>setspn -d</code> コマンドを使用します。 <pre>setspn -d http/highavail.com johndoe</pre> この例で、highavail.com は、アプライアンスのハイ アベイラビリティのホスト名で、johndoe は関連付けを解除するユーザ名です。 SPN を追加します。 次のように <code>setspn -s</code> コマンドを使用します。 <pre>setspn -s http/highavail.com hausername</pre> この例で、highavail.com はアプライアンスのハイ アベイラビリティのホスト名で、hausername は作成または選択したユーザ名です。

(注) 関連する Active Directory レلمで keytab 認証が有効になっていることを確認します。Kerberos 認証方式の Active Directory レلمの作成 (17 ページ) を参照してください。レلمがすでに作成されている場合は、レلمを編集し、keytab 認証を有効にします。

認証レلم

認証レلمによって、認証サーバに接続するために必要な詳細情報を定義し、クライアントと通信するときに使用する認証方式を指定します。AsyncOS は複数の認証レلمをサポートしています。レلمを認証シーケンスにグループ化することにより、認証要件が異なるユーザを同じポリシーで管理することができます。

- [外部認証 \(16 ページ\)](#)
- [Kerberos 認証方式の Active Directory レلمの作成 \(17 ページ\)](#)
- [Active Directory 認証レلمの作成 \(NTLMSSP および基本\) \(21 ページ\)](#)
- [LDAP 認証レلمの作成 \(24 ページ\)](#)

- [認証レールの削除について \(29 ページ\)](#)
- [グローバル認証の設定 \(30 ページ\)](#)

関連項目

- [認証シーケンス \(37 ページ\)](#)
- [RADIUS ユーザ認証](#)

外部認証

外部 LDAP または RADIUS サーバからユーザを認証できます。

LDAP サーバによる外部認証の設定

始める前に

LDAP 認証レールを作成し、それに 1 つ以上の外部認証クエリーを設定します。[LDAP 認証レールの作成 \(24 ページ\)](#)。

ステップ 1 アプライアンスで外部認証を有効にします。

- [システム管理 (System Administration)] > [ユーザ (Users)] に移動します。
- [外部認証 (External Authentication)] セクションで [有効 (Enable)] をオンにします。
- 以下のオプションを設定します。

オプション	説明
外部認証を有効にする (Enable External Authentication)	—
認証タイプ (Authentication Type)	[LDAP] を選択します。
外部認証キャッシュタイムアウト (External Authentication Cache Timeout)	再認証のために LDAP サーバに再接続するまで、AsyncOS が外部認証クレデンシャルを保存する秒数。デフォルトはゼロ (0) です。
LDAP 外部認証クエリー (LDAP External Authentication Query)	LDAP レールにより設定されたクエリー。
サーバからの有効なレスポンス待ちタイムアウト (Timeout to wait for valid response from server)	AsyncOS がサーバからのクエリーに対する応答を待機する秒数。
グループ マッピング (Group Mapping)	ディレクトリ内の各グループ名にロールを割り当てます。

ステップ 2 変更を送信し、保存します。

RADIUS 外部認証のイネーブル化

[RADIUS を使用した外部認証の有効化](#)を参照してください。

Kerberos 認証方式の Active Directory レルムの作成

始める前に

- アプライアンスが（クラウド コネクタ モードではなく）標準モードで設定されていることを確認します。
- ハイアベイラビリティを設定する場合、**手順9**で指定した[Kerberosハイアベイラビリティ (Kerberos High Availability)]セクションの[キータブ認証を使用する (Use keytab authentication)]チェックボックスもオンにしてください。

アプライアンスが、ロードバランサなどのHTTP/HTTPSトラフィック分散デバイスの背後にある場合は、Active Directory内のトラフィック分散デバイスのSPNをユーザアカウントに関連付けて、[Kerberosハイアベイラビリティ (Kerberos High Availability)]セクションでそのユーザアカウントのクレデンシャルを入力する必要があります。ネットワークトポロジで、トラフィックをリダイレクトする最初のデバイスのSPNを追加する必要があります。たとえば、クライアントデバイスの送信ネットワークトラフィックがトラフィックマネージャ、ロードバランサ、およびWebセキュリティアプライアンスを通過する場合、トラフィックマネージャのSPNをActive Directoryのユーザアカウントに追加し、このセクションでユーザクレデンシャルを入力する必要があります。これは、トラフィックマネージャがクライアントデバイスのトラフィックを検出する最初のデバイスであるためです。

- Active Directory サーバを準備します。
 - 以下のサーバのいずれかに Active Directory をインストールします：Windows Server 2003、2008、2008R2、2012。
 - Active Directory サーバでユーザを作成します。
 - ドメイン管理者グループまたはアカウントオペレータグループのメンバーであるユーザを Active Directory サーバ上に作成します。
- または
- 次の権限を持つユーザ名を作成します。
 - Active Directory でのパスワードリセット権限
 - servicePrincipalName への検証済み書き込み
 - アカウント制限事項の書き込み
 - dNSHost 名の書き込み
 - servicePrincipalName の書き込み

以上は、アプライアンスをドメインに参加させてアプライアンスが完全機能していることを確認するために、ユーザ名に必要な最小限の Active Directory 権限です。

- クライアントをドメインに参加させます。サポートされるクライアントは、Windows XP、Windows 7、Mac OS 10.5+ です。
- Windows Resource Kit の kerbtray ツールを使用して、クライアントの Kerberos チケットを確認します (<http://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=17657>) 。
- Mac クライアントでは、[メインメニュー (Main Menu)] > [Keychain Access] で、Ticket Viewer アプリケーションを使用して Kerberos チケットを確認できます。
- 認証元となる Active Directory ドメインに Webセキュリティ アプライアンスを参加させるために必要な、権限とドメイン情報を取得済みであることを確認します。
- Web セキュリティ アプライアンスの現在の時刻と Active Directory サーバの現在時刻を比較して、その差が Active Directory サーバの [コンピュータ クロック同期の最大許容時間 (Maximum tolerance for computer clock synchronization)] オプションで指定されている時間を超えていないことを確認します。
- Web セキュリティ アプライアンスがセキュリティ管理アプライアンスで管理されている場合は、異なる Webセキュリティ アプライアンス上の同名の認証レルムのプロパティが、各アプライアンスで定義されているプロパティと同一になるように設定しておきます。
- Web セキュリティ アプライアンスの設定は以下のとおりです。
 - 明示的モードでは、WSA ホスト名 (sethostname CLI コマンド) をブラウザで設定されているプロキシ名と同じにする必要があります。
 - 透過モードでは、WSA ホスト名をリダイレクト ホスト名と同じにする必要があります (グローバル認証の設定 (30 ページ) を参照)。さらに、Kerberos レルムを作成する前に、WSA ホスト名とリダイレクト ホスト名を設定する必要があります。
- 新しいレルムを確定すると、レルムの認証プロトコルを変更できなくなるので注意してください。
- シングルサインオン (SSO) をクライアント ブラウザで設定する必要があります (シングルサインオンの設定 (13 ページ) を参照)。
- ログの使用を簡素化するため、%m のカスタムフィールドのパラメータを使用してアクセス ログをカスタマイズします。アクセス ログのカスタマイズを参照してください。

-
- ステップ 1** Cisco Web セキュリティ アプライアンス Web インターフェイスで、[ネットワーク (Network)] > [認証 (Authentication)] の順に選択します。
- ステップ 2** [レルムを追加 (Add Realm)] をクリックします。
- ステップ 3** 英数字とスペース文字だけを使用して、認証レルムに一意の名前を割り当てます。

ステップ 4 [認証プロトコル (Authentication Protocol)] フィールドで [Active Directory] を選択します。

ステップ 5 Active Directory サーバの完全修飾ドメイン名または IP アドレスを 3 つまで入力します。

例 : ntlm.example.com

IP アドレスが必要なのは、アプライアンスで設定されている DNS サーバが Active Directory サーバのホスト名を解決できない場合だけです。

レルムに複数の認証サーバを設定した場合、アプライアンスは、そのレルム内のトランザクションの認証に失敗するまでに最大 3 つの認証サーバで認証を試みます。

ステップ 6 アプライアンスをドメインに参加させます。

a) Active Directory アカウントを設定します。

設定	説明
Active Directory ドメイン (Active Directory Domain)	Active Directory サーバのドメイン名。DNS ドメインまたはレルムとも呼ばれます。
NetBIOS ドメイン名 (NetBIOS domain name)	ネットワークで NetBIOS を使用する場合は、ドメイン名を入力します。 ヒント このオプションを使用できない場合は、setntlmsecuritymode CLI コマンドを使用して、NTLM セキュリティ モードが [ドメイン (domain)] に設定されていることを確認します。
コンピュータ アカウント (Computer Account)	ドメイン上のコンピュータを一意的に識別する Active Directory コンピュータ アカウント (別名「マシン信頼アカウント」) が作成される、Active Directory ドメイン内の場所を指定します。 Active Directory 環境で、コンピュータ オブジェクトが一定の間隔で自動的に削除される場合は、自動削除から保護されているコンテナ内にコンピュータ アカウントの場所を指定します。

b) [ドメインに参加 (Join Domain)] をクリックします。

(注) すでに参加しているドメインに参加しようとする (同じクレデンシャルを使用している場合でも)、Active Directory が新しいキーセットをこの WSA を含む全てのクライアントに送信するため、既存の接続は閉じられます。影響を受けるクライアントは、ログオフしてから再度ログインする必要があります。

c) Active Directory 上のアカウントにログイン クレデンシャル (ユーザ名およびパスワード) を指定し、[アカウントの作成 (Create Account)] をクリックします。

ステップ 7 (任意) 透過的ユーザ識別を設定します。

設定	説明
Active Directory を使用して透過ユーザ識別を有効にする (Enable Transparent User Identification using Active Directory agent)	プライマリ Context Directory エージェントがインストールされているマシンのサーバ名と、それにアクセスするために使用する共有秘密の両方を入力します。 (任意) バックアップ Context Directory エージェントがインストールされているマシンのサーバ名とその共有秘密を入力します。

ステップ 8 ネットワーク セキュリティを設定します。

設定	説明
クライアントの署名が必須 (Client Signing Required)	クライアントの署名を要求するように Active Directory サーバが設定されている場合は、このオプションを選択します。 このオプションを選択した場合、AsyncOS は、Active Directory サーバとの通信時に Transport Layer Security を使用します。

ステップ 9 ハイアベイラビリティを使用する場合は、[Kerberosハイアベイラビリティ (Kerberos High Availability)] セクションで[キータブ認証を使用する (Use keytab authentication)] チェックボックスをオンにします。

a) [ユーザ名 (Username)] と [パスワード (Password)] を入力します。

ハイアベイラビリティ クラスターの IP アドレスまたはホスト名に対応する SPN に関連付けられている Active Directory ユーザの名前を入力します。ユーザ名にドメイン名を含めないでください (たとえば、'DOMAIN\johndoe' や 'johndoe@domain' ではなく、「johndoe」と入力します)。ハイアベイラビリティ展開の認証に使用されるサービスアカウントの作成に関する情報については、[ハイアベイラビリティ展開で Kerberos 認証を行うための Windows Active Directory におけるサービスアカウントの作成 \(13 ページ\)](#) を参照してください。

b) ハイアベイラビリティ クラスター内のすべてのアプライアンスについて、この手順を繰り返します。

(注) アプライアンスが、ロードバランサなどの HTTP/HTTPS トラフィック分散デバイスの背後にある場合は、Active Directory 内のトラフィック分散デバイスの SPN をユーザアカウントに関連付けて、[Kerberosハイアベイラビリティ (Kerberos High Availability)] セクションでそのユーザアカウントのクレデンシャルを入力する必要があります。ネットワーク トポロジで、トラフィックをリダイレクトする最初のデバイスの SPN を追加する必要があります。たとえば、クライアントデバイスの送信ネットワークトラフィックがトラフィックマネージャ、ロードバランサ、および Web セキュリティ アプライアンスを通過する場合、トラフィックマネージャの SPN を Active Directory のユーザアカウントに追加し、このセクションでユーザクレデンシャルを入力する必要があります。これは、トラフィックマネージャがクライアントデバイスのトラフィックを検出する最初のデバイスであるためです。

ステップ 10 (任意) [テスト開始 (Start Test)] をクリックします。これにより、ユーザが実際にそれらを使用して認証を受ける前に、入力した設定をテストして正しいかどうかを確認できます。テストの具体的な実行方法については、「[複数の NTLM レルムとドメインの使用 \(29 ページ\)](#)」を参照してください。

- ステップ 11 テスト中に発生した問題をトラブルシューティングします。認証の問題のトラブルシューティング ツールを参照してください
- ステップ 12 変更を送信し、保存します。

次のタスク

Kerberos 認証方式を使用する識別プロファイルを作成します。ユーザおよびクライアントソフトウェアの分類。

Active Directory 認証レールの作成 (NTLMSSP および基本)

Active Directory 認証レールの作成の前提条件 (NTLMSSP および基本)

- 認証元となる Active Directory ドメインに Webセキュリティ アプライアンスを参加させるために必要な、権限とドメイン情報を取得済みであることを確認します。
- NTLMセキュリティモードとして「domain」を使用する場合は、ネストした Active Directory グループのみを使用します。Active Directory グループがネストされていない場合は、デフォルト値の「ads」を使用します。このマニュアルの付録「コマンドラインインターフェイス」で `setntlmsecuritymode` を参照してください。
- Web セキュリティ アプライアンスの現在の時刻と Active Directory サーバの現在時刻を比較して、その差が Active Directory サーバの [コンピュータ クロック同期の最大許容時間 (Maximum tolerance for computer clock synchronization)] オプションで指定されている時間を超えていないことを確認します。
- Web セキュリティ アプライアンスがセキュリティ管理アプライアンスで管理されている場合は、異なる Webセキュリティ アプライアンス上の同名の認証レールのプロパティが、各アプライアンスで定義されているプロパティと同一になるように設定しておきます。
- 新しいレールを確定すると、レールの認証プロトコルを変更できなくなるので注意してください。
- WSA は、信頼できるすべてのドメインのドメインコントローラと、NTLM レールに設定されたドメインコントローラに接続する必要があります。認証が正しく機能するように、内部ドメインおよび外部ドメインのすべてのドメインコントローラに対して次のポートを開く必要があります。
 - LDAP (389 UDP および TCP)
 - Microsoft SMB (445 TCP)
 - Kerberos (88 UDP)
 - エンドポイント解決 : ポート マッパー (135 TCP) Net Log-on 固定ポート
- NTLMSSP の場合は、クライアントブラウザにシングルサインオン (SSO) を設定できません。シングルサインオンの設定 (13 ページ) を参照してください。

複数の NTLM レルムとドメインの使用について

以下のルールは、複数の NTLM レルムとドメインを使用する場合に該当します。

- 最大 10 の NTLM 認証レルムを作成できます。
- ある NTLM レルムのクライアント IP アドレスが、別の NTLM レルムのクライアント IP アドレスと重複しないようにする必要があります。
- 各 NTLM レルムは 1 つの Active Directory ドメインにのみ参加できますが、そのドメインが信頼しているあらゆるドメインのユーザを認証できます。この信頼は、同じフォレスト内の他のドメインにデフォルトで適用され、少なくとも一方向の信頼が存在しているフォレスト外部のドメインに適用されます。
- 既存の NTLM レルムが信頼していないドメインのユーザを認証するには、追加の NTLM レルムを作成します。

Active Directory 認証レルムの作成 (NTLMSSP および基本)

ステップ 1 [ネットワーク (Network)] > [認証 (Authentication)] を選択します。

ステップ 2 [レルムを追加 (Add Realm)] をクリックします。

ステップ 3 英数字とスペース文字だけを使用して、認証レルムに一意的な名前を割り当てます。

ステップ 4 [認証プロトコルと方式 (Authentication Protocol and Scheme(s))] フィールドで [Active Directory] を選択します。

ステップ 5 Active Directory サーバの完全修飾ドメイン名または IP アドレスを 3 つまで入力します。

例: active.example.com

IP アドレスが必要なのは、アプライアンスで設定されている DNS サーバが Active Directory サーバのホスト名を解決できない場合だけです。

レルムに複数の認証サーバを設定した場合、アプライアンスは、そのレルム内のトランザクションの認証に失敗するまでに最大 3 つの認証サーバで認証を試みます。

ステップ 6 アプライアンスをドメインに参加させます。

a) Active Directory アカウントを設定します。

設定	説明
Active Directory ドメイン (Active Directory Domain)	Active Directory サーバのドメイン名。DNS ドメインまたはレルムとも呼ばれます。
NetBIOS ドメイン名 (NetBIOS domain name)	ネットワークで NetBIOS を使用する場合は、ドメイン名を入力します。

設定	説明
コンピュータ アカウント (Computer Account)	ドメイン上のコンピュータを一意的に識別する Active Directory コンピュータ アカウント (別名「マシン信頼アカウント」) が作成される、Active Directory ドメイン内の場所を指定します。 Active Directory 環境で、コンピュータ オブジェクトが一定の間隔で自動的に削除される場合は、自動削除から保護されているコンテナ内にコンピュータ アカウントの場所を指定します。

- b) [ドメインに参加 (Join Domain)] をクリックします。
- (注) すでに参加しているドメインに参加しようとする (同じクレデンシャルを使用している場合でも)、Active Directory が新しいキーセットをこの WSA を含む全てのクライアントに送信するため、既存の接続は閉じられます。影響を受けるクライアントは、ログオフしてから再度ログインする必要があります。
- c) そのドメインにコンピュータ アカウントを作成する権限を持つ、既存の Active Directory ユーザの sAMAccountName ユーザ名とパスフレーズを入力します。
- 例: 「jazzdoe」 (「DOMAIN\jazzdoe」 や 「jazzdoe@domain」 は使用しないでください) 。
- この情報は、コンピュータ アカウントを確立するために一度だけ使用され、保存されません。
- d) [アカウントの作成 (Create Account)] をクリックします。

ステップ 7 (任意) 透過的認証を設定します。

設定	説明
Active Directory を使用して透過ユーザ識別を有効にする (Enable Transparent User Identification using Active Directory agent)	プライマリ Context Directory エージェントがインストールされているマシンのサーバ名と、それにアクセスするために使用する共有秘密の両方を入力します。 (任意) バックアップ Context Directory エージェントがインストールされているマシンのサーバ名とその共有秘密を入力します。

ステップ 8 ネットワーク セキュリティを設定します。

設定	説明
クライアントの署名が必須 (Client Signing Required)	クライアントの署名を要求するように Active Directory サーバが設定されている場合は、このオプションを選択します。 このオプションを選択した場合、AsyncOS は、Active Directory サーバとの通信時に Transport Layer Security を使用します。

ステップ 9 (任意) [テスト開始 (Start Test)] をクリックします。これにより、ユーザが実際にそれらを使用して認証を受ける前に、入力した設定をテストして正しいかどうかを確認できます。

ステップ 10 変更を送信し、保存します。

LDAP 認証レルムの作成

始める前に

- 組織の LDAP に関する以下の情報を取得します。
 - LDAP のバージョン
 - サーバのアドレス
 - LDAP ポート
- Web セキュリティ アプライアンスがセキュリティ管理アプライアンスで管理されている場合は、異なる Web セキュリティ アプライアンス上の同名の認証レルムのプロパティが、各アプライアンスで定義されているプロパティと同一になるように設定しておきます。

ステップ 1 [ネットワーク (Network)] > [認証 (Authentication)] を選択します。

ステップ 2 [レルムを追加 (Add Realm)] をクリックします。

ステップ 3 英数字とスペース文字だけを使用して、認証レルムに一意の名前を割り当てます。

ステップ 4 [認証プロトコルと方式 (Authentication Protocol and Scheme(s))] フィールドで [LDAP] を選択します。

ステップ 5 LDAP 認証の設定を入力します。

設定	説明
LDAP のバージョン (LDAP Version)	LDAP のバージョンを選択し、セキュア LDAP を使用するかどうかを選択します。 アプライアンスは、LDAP バージョン 2 および 3 をサポートしています。セキュア LDAP には LDAP バージョン 3 が必要です。 この LDAP サーバが透過的ユーザ識別で使用する Novell eDirectory をサポートしているかどうかを選択します。

設定	説明
LDAP サーバ (LDAP Server)	<p>LDAP サーバの IP アドレスまたはホスト名、およびポート番号を入力します。最大 3 つのサーバを指定できます。</p> <p>ホスト名は、完全修飾ドメイン名である必要があります。例：ldap.example.com。IP アドレスが必要なのは、アプライアンスで設定されている DNS サーバが LDAP サーバのホスト名を解決できない場合のみです。</p> <p>標準 LDAP のデフォルトのポート番号は 389 です。セキュア LDAP のデフォルトの番号は 636 です。</p> <p>LDAP サーバが Active Directory サーバの場合は、ドメイン コントローラのホスト名または IP アドレス、およびポートを入力します。可能な限り、グローバルカタログサーバの名前を入力し、ポート 3268 を使用します。ただし、グローバル カタログサーバが物理的に離れた場所にあり、ローカルドメインコントローラのユーザのみを認証する必要がある場合は、ローカルドメインコントローラを使用することもできます。</p> <p>注：レールに複数の認証サーバを設定した場合、アプライアンスは、そのレール内のトランザクションの認証に失敗するまでに最大 3 つの認証サーバで認証を試みます。</p>
LDAP 持続的接続 (LDAP Persistent Connections) ([詳細設定 (Advanced)] セクションの下)	<p>以下の値のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [永続的接続の使用 (無制限) (Use persistent connections (unlimited))]。既存の接続を使用します。使用できる接続がない場合は、新しい接続が開かれます。 • [永続的接続の使用 (Use persistent connections)]。既存の接続を使用して、指定された数の要求に使用します。最大値に達すると、LDAP サーバへの新しい接続が確立されません。 • [永続的接続を使用しない (Do not use persistent connections)]。必ず、LDAP サーバへの新しい接続を作成します。

設定	説明
ユーザ認証 (User Authentication)	<p>以下のフィールドに値を入力します。</p> <p>[ベース識別名 (ベース DN) (Base Distinguished Name (Base DN))]</p> <p>LDAP データベースはツリー型のディレクトリ構造になっており、アプライアンスはベース DN を使用して、LDAP ディレクトリ ツリー内の適切な場所に移動し、検索を開始します。有効なベース DN フィルタ文字列は、object-value 形式の 1 つ以上のコンポーネントから構成されます。たとえば、「dc=companyname, dc=com」のように入力します。</p> <p>[ユーザ名属性 (User Name Attribute)]</p> <p>以下の値のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [uid]、[cn]、[sAMAccountName]。 ユーザ名を指定する、LDAP ディレクトリで一意の ID。 • [カスタム (custom)]。 「UserAccount」などのカスタム ID。 <p>[ユーザフィルタクエリー (User Filter Query)]</p> <p>ユーザ フィルタ クエリーは、ユーザのベース DN を見つける LDAP 検索フィルタです。これは、ユーザディレクトリがベース DN の下の階層にある場合、またはそのユーザのベース DN のユーザ固有コンポーネントにログイン名が含まれていない場合に必要です。</p> <p>以下の値のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [なし (none)]。すべてのユーザを抽出します。 • [カスタム (custom)]。ユーザの特定のグループを抽出します。
クエリー クレデンシャル (Query Credentials)	<p>認証サーバが匿名クエリーを受け入れるかどうかを選択します。</p> <p>認証サーバが匿名クエリーを受け入れる場合は、[サーバは、匿名の質問に対応します (Server Accepts Anonymous Queries)]を選択します。</p> <p>認証サーバが匿名クエリーを受け入れない場合は、[バインド DN を使用 (Use Bind DN)]を選択し、以下の情報を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [バインド DN (Bind DN)]。LDAP ディレクトリの検索を許可された外部 LDAP サーバ上のユーザ。通常、バインド DN はディレクトリ全体の検索を許可されます。 • [パスフレーズ (Passphrase)]。[バインド DN (Bind DN)]フィールドに入力したユーザに関連付けられているパスフレーズ。 <p>以下のテキストは、[バインド DN (Bind DN)]フィールドに入力するユーザの例を示しています。</p> <pre>cn=administrator,cn=Users,dc=domain,dc=com sAMAccountName=jdoe,cn=Users,dc=domain,dc=com.</pre> <p>LDAP サーバが Active Directory サーバの場合は、「DOMAIN\username」の形式でバインド DN ユーザ名を入力することもできます。</p>

ステップ 6 (任意) グループオブジェクトまたはユーザオブジェクトを介して[グループ認証 (Group Authorization)] をイネーブルにし、選択したオプションを設定します。

グループオブジェクト設定	説明
グループオブジェクト内のグループメンバーシップ属性 (Group Membership Attribute Within Group Object)	このグループに属するすべてのユーザをリストする LDAP 属性を選択します。 以下の値のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [member] および [uniquemember]。グループメンバを指定する、LDAP ディレクトリで一意の ID。 • [カスタム (custom)]。 「UserInGroup」などのカスタム ID。
グループ名を含む属性 (Attribute that Contains the Group Name)	ポリシーグループの設定で使用できるグループ名を指定する LDAP 属性を選択します。 以下の値のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [cn]。グループ名を指定する、LDAP ディレクトリで一意の ID。 • [カスタム (custom)]。 「FinanceGroup」などのカスタム ID。
オブジェクトがグループかどうかを判別するクエリ文字列 (Query string to determine if object is a group)	LDAP オブジェクトがユーザグループを表しているかどうかを判別する LDAP 検索フィルタを選択します。 以下の値のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • objectclass=groupofnames • objectclass=groupofuniquenames • objectclass=group • [カスタム (custom)]。 「objectclass=person」などのカスタムフィルタ。 注：クエリによって、ポリシーグループで使用できる一連の認証グループが定義されます。
ユーザオブジェクト設定	説明
ユーザオブジェクト内のグループメンバーシップ属性 (Group Membership Attribute Within User Object)	このユーザが属するすべてのグループをリストする属性を選択します。 以下の値のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [memberOf]。ユーザメンバを指定する、LDAP ディレクトリで一意の ID。 • [カスタム (custom)]。 「UserInGroup」などのカスタム ID。
グループメンバーシップ属性は DN (Group Membership Attribute is a DN)	グループメンバーシップ属性が、LDAP オブジェクトを参照する識別名 (DN) であるかどうかを指定します。Active Directory サーバの場合は、このオプションをイネーブルにします。 これをイネーブルにした場合は、以下の設定を指定する必要があります。

ユーザオブジェクト設定	説明
グループ名を含む属性 (Attribute that Contains the Group Name)	グループメンバーシップ属性が DN である場合に、ポリシー グループ設定でグループ名として使用できる属性を指定します。 以下の値のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [cn]。グループ名を指定する、LDAP ディレクトリで一意の ID。 • [カスタム (custom)]。 「FinanceGroup」などのカスタム ID。
オブジェクトがグループかどうかを判別するクエリ文字列 (Query string to determine if object is a group)	LDAP オブジェクトがユーザグループを表しているかどうかを判別する LDAP 検索フィルタを選択します。 以下の値のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • objectclass=groupofnames • objectclass=groupofuniquenames • objectclass=group • [カスタム (custom)]。 「objectclass=person」などのカスタム フィルタ。 注：クエリーによって、Web Security Manager ポリシーで使用できる一連の認証グループが定義されます。

ステップ 7 (任意) ユーザに対する外部 LDAP 認証を設定します。

- a) [外部認証クエリ (External Authentication Query)] を選択します。
- b) ユーザ アカウントを特定します。

ベース DN (Base DN)	検索を開始する LDAP ディレクトリ ツリー内の適切な場所に移動するためのベース DN。
クエリ文字列 (Query String)	一連の認証グループを返すクエリー。例 : (&(objectClass=posixAccount)(uid={u})) または (&(objectClass=user)(sAMAccountName={u}))
ユーザのフルネームが格納されている属性 (Attribute containing the user's full name)	LDAP 属性 (例 : displayName、gecos)。

- c) (任意) RFC 2307 アカウント有効期限 LDAP 属性に基づき、有効期限切れのアカウントはログインが拒否されます。
- d) ユーザのグループ情報を取得するクエリーを入力します。

1 人のユーザが複数の LDAP グループに属しており、それぞれユーザ ロールが異なる場合は、最も限定的なロールのアクセス許可が AsyncOS によってそのユーザに付与されます。

ベース DN (Base DN)	検索を開始する LDAP ディレクトリ ツリー内の適切な場所に移動するためのベース DN。
クエリ文字列 (Query String)	(&(objectClass=posixAccount)(uid={u}))
ユーザのフルネームが格納されている属性 (Attribute containing the user's full name)	gecos

ステップ 8 (任意) [テスト開始 (Start Test)] をクリックします。これにより、ユーザが実際にそれらを使用して認証を受ける前に、入力した設定をテストして正しいかどうかを確認できます。テストの具体的な実行方法については、「[複数の NTLM レルムとドメインの使用 \(29 ページ\)](#)」を参照してください。

(注) 変更を送信して確定すると、後でレルムの認証プロトコルを変更できなくなります。

ステップ 9 変更を送信し、保存します。

次のタスク

Kerberos 認証方式を使用する識別プロファイルを作成します。[ユーザおよびクライアントソフトウェアの分類](#)を参照してください。

関連項目

- [外部認証 \(16 ページ\)](#)

複数の NTLM レルムとドメインの使用

次のルールは、複数の NTLM レルムとドメインを使用する場合に該当します。

- 最大 10 の NTLM 認証レルムを作成できます。
- ある NTLM レルムのクライアント IP アドレスが、別の NTLM レルムのクライアント IP アドレスと重複しないようにする必要があります。
- 各 NTLM レルムは 1 つの Active Directory ドメインにのみ参加できますが、そのドメインが信頼しているあらゆるドメインのユーザを認証できます。この信頼は、同じフォレスト内の他のドメインにデフォルトで適用され、少なくとも一方向の信頼が存在しているフォレスト外部のドメインに適用されます。
- 既存の NTLM レルムが信頼していないドメインのユーザを認証するには、追加の NTLM レルムを作成します。

認証レルムの削除について

認証レルムを削除すると関連する ID がディセーブルになり、さらに、関連するポリシーからそれらの ID が削除されます。

認証レلمを削除すると、そのレلمがシーケンスから削除されます。

グローバル認証の設定

認証レلمの認証プロトコルとは別途に、グローバル認証の設定項目を設定してすべての認証レلمに設定を適用します。

Web プロキシの展開モードは、設定できるグローバル認証の設定項目に影響します。明示的な転送モードよりも、透過モードで展開されている場合の方がより多くの設定項目を使用できます。

始める前に

- 以下の概念をよく理解しておいてください。
 - [認証の失敗 \(39 ページ\)](#)
 - [認証の失敗：異なるクレデンシャルによる再認証の許可 \(44 ページ\)](#)

ステップ 1 [ネットワーク (Network)] > [認証 (Authentication)] を選択します。

ステップ 2 [グローバル設定を編集 (Edit Global Settings)] をクリックします。

ステップ 3 [グローバル認証設定 (Global Authentication Settings)] セクションで、設定を編集します。

設定	説明
認証サーバが利用できない場合のアクション (Action if Authentication Service Unavailable)	以下の値のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [認証なしでトラフィックの通過を許可 (Permit traffic to proceed without authentication)]。処理が、ユーザが認証されたかのよう に続行されます。 • [認証に失敗した場合にすべてのトラフィックをブロック (Block all traffic if user authentication fails)]。処理が中止され、すべての トラフィックがブロックされます。
失敗した認証手続き (Failed Authentication Handling)	識別プロファイル ポリシーでユーザにゲストアクセスを許可する場合は、この設定項目により、Web プロキシがユーザをゲストとして識別してアクセス ログに記録する方法を指定します。 ユーザのゲスト アクセス許可の詳細については、 認証失敗後のゲストアクセスの許可 (42 ページ) を参照してください。

設定	説明
<p>再認証 (Re-authentication)</p> <p>(URLカテゴリまたはユーザセッションの制限によりエンドユーザがブロックされた場合に再認証プロンプトをイネーブルにする (Enable Re-Authentication Prompt If End User Blocked by URL Category or User Session Restriction))</p>	<p>制限が厳しいURLフィルタリングポリシーによって、または別のIPアドレスへのログインの制限によってユーザがWebサイトからブロックされた場合に、ユーザに再認証を許可します。</p> <p>新しい認証クレデンシャルを入力できるリンクが記載されたブロックページがユーザに表示されます。より多くのアクセスを許可するクレデンシャルをユーザが入力すると、要求されたページがブラウザに表示されます。</p> <p>注：この設定は、制限が厳しいURLフィルタリングポリシーまたはユーザセッションの制限によってブロックされた、認証済みユーザにのみ適用されます。認証されずに、サブネットによりブロックされたトランザクションには適用されません。</p> <p>詳細については、認証の失敗：異なるクレデンシャルによる再認証の許可 (44 ページ) を参照してください。</p>
<p>ベーシック認証トークン TTL (Basic Authentication Token TTL)</p>	<p>認証サーバによって再検証されるまで、ユーザのクレデンシャルがキャッシュ内に保管される期間を制御します。これには、ユーザ名とパスワード、およびユーザに関連付けられているディレクトリグループが含まれます。</p> <p>デフォルト値は推奨されている設定です。[サロゲートタイムアウト (Surrogate Timeout)]が設定されており、その値が[ベーシック認証トークン TTL (Basic Authentication Token TTL)]よりも大きい場合は、サロゲートタイムアウトの値が優先され、Web プロキシは、サロゲートタイムアウトの期限が切れた後に認証サーバに連絡します。</p>

その他の設定可能な認証設定項目は、Web プロキシが展開されているモード (透過モードまたは明示的な転送モード) に応じて異なります。

ステップ 4 Web プロキシが透過モードで展開されている場合は、以下の設定項目を編集します。

設定	説明
<p>クレデンシャルの暗号化 (Credential Encryption)</p>	<p>クライアントが暗号化 HTTPS 接続を介して Web プロキシにログインクレデンシャルを送信するかどうかを指定します。</p> <p>この設定は基本認証方式と NTLMSP 認証方式の両方に適用されますが、特に基本認証方式の場合に役立ちます。基本認証方式では、ユーザクレデンシャルがプレーンテキストで送信されるからです。</p> <p>詳細については、認証の失敗 (39 ページ) を参照してください。</p>

設定	説明
<p>HTTPS リダイレクト ポート (HTTPS Redirect Port)</p>	<p>HTTPS 接続を介してユーザ認証要求をリダイレクトする場合に使用する TCP ポートを指定します。</p> <p>これによって、クライアントが HTTPS による Web プロキシへの接続を開始するポートが指定されます。これは、クレデンシャルの暗号化がイネーブルになっている場合や、アクセス コントロールの使用時にユーザに認証を求める場合に発生します。</p>
<p>リダイレクト ホスト名 (Redirect Hostname)</p>	<p>Web プロキシが着信接続をリッスンするネットワーク インターフェイスの短いホスト名を入力します。</p> <p>透過モードで展開されているアプライアンスに認証を設定した場合、Web プロキシは、ユーザの認証のためにクライアントに送信するリダイレクション URL でこのホスト名を使用します。</p> <p>以下の値のいずれかを入力できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [1 語のホスト名 (Single word hostname)]。クライアントと Web セキュリティ アプライアンス が DNS 解決可能な 1 語のホスト名を入力できます。これにより、クライアントは、ブラウザ側を設定することなく、Internet Explorer で真のシングルサインオンを実現できます。必ず、クライアントと Web セキュリティ アプライアンスが DNS 解決可能な 1 語のホスト名を入力してください。たとえば、クライアントがドメイン mycompany.com にあり、Web プロキシがリッスンしているインターフェイスに完全なホスト名 proxy.mycompany.com が設定されている場合、このフィールドには proxy と入力する必要があります。クライアントはプロキシに対してルックアップを実行し、proxy.mycompany.com を解決できます。 • [完全修飾ドメイン名 (FQDN) (Fully qualified domain name (FQDN))]。このフィールドに、FQDN または IP アドレスを入力することもできます。ただし、その場合、Internet Explorer や Firefox ブラウザで真のシングルサインオンを実現するには、入力する FQDN または IP アドレスが、クライアントブラウザのクライアント信頼済みサイトリストに追加されていることを確認する必要があります。デフォルト値は、プロキシトラフィックに使用されるインターフェイスに応じて、M1 または P1 インターフェイスの FQDN です。

設定	説明
クレデンシャル キャッシュ オプション: (Credential Cache Options:) サロゲートタイムアウト (Surrogate Timeout)	<p>クライアントに認証クレデンシャルを再度要求するまでに、Web プロキシが待機する時間を指定します。クレデンシャルを再度要求するまで、Web プロキシはサロゲートに保存された値 (IP アドレスまたは Cookie) を使用します。</p> <p>一般的に、ブラウザなどのユーザ エージェントでは、ユーザが毎回クレデンシャルを入力する必要がないように、認証クレデンシャルがキャッシュされます。</p>
クレデンシャル キャッシュ オプション: (Credential Cache Options:) クライアント IP アイドルタイムアウト (Client IP Idle Timeout)	<p>IP アドレスを認証サロゲートとして使用する場合は、この設定で、クライアントがアイドル状態のときに、認証クレデンシャルをクライアントに再要求するまで Web プロキシが待機する時間を指定します。</p> <p>この値がサロゲートタイムアウト値よりも大きい場合、この設定には効力がなく、サロゲートタイムアウトに達した後にクライアントへの認証要求が行われます。</p> <p>この設定を使用すると、コンピュータの前にはいない時間が多いユーザの脆弱性を低減できます。</p>
クレデンシャル キャッシュ オプション: (Credential Cache Options:) キャッシュ サイズ (Cache Size)	<p>認証キャッシュに格納するエントリの数を指定します。この値を設定すると、実際にこのデバイスを使用しているユーザの数に安全に対応できます。デフォルト値は推奨されている設定です。</p>
ユーザ セッション制限 (User Session Restrictions)	<p>認証済みユーザが複数の IP アドレスから同時にインターネットにアクセスすることを許可するかどうかを指定します。</p> <p>ユーザが未認証ユーザと認証クレデンシャルを共有しないように、1つのマシンへのアクセスを制限できます。ユーザが別のマシンでログインできない場合は、エンドユーザ通知ページが表示されます。このページの [再認証 (Re-authentication)] 設定を使用し、ユーザがボタンをクリックして別のユーザ名でログインできるかどうかを指定することもできます。</p> <p>この設定をイネーブルにする場合は、制限タイムアウト値を入力します。この値によって、別の IP アドレスでマシンにログインできるようになるまでのユーザの待機時間を指定します。制限タイムアウト値は、サロゲートタイムアウト値よりも大きい値でなければなりません。</p> <p>authcache CLI コマンドを使用して、認証キャッシュから特定のユーザやすべてのユーザを削除できます。</p>

設定	説明
詳細設定 (Advanced)	クレデンシャルの暗号化またはアクセス コントロールを使用している場合は、アプライアンスがそれに付属しているデジタル証明書とキー (Cisco IronPort Web セキュリティアプライアンス デモ証明書) を使用するか、ここでアップロードするデジタル証明書を使用するかを選択できます。

ステップ 5 Web プロキシが明示的な転送モードで展開されている場合は、以下の設定項目を編集します。

設定	説明
クレデンシャルの暗号化 (Credential Encryption)	<p>クライアントが暗号化HTTPS 接続を介して Web プロキシにログイン クレデンシャルを送信するかどうかを指定します。クレデンシャルの暗号化をイネーブルにするには、[HTTPS リダイレクト (セキュア) (HTTPS Redirect (Secure))] を選択します。クレデンシャルの暗号化をイネーブルにすると、認証のためにクライアントを Web プロキシにリダイレクトする方法を設定する追加フィールドが表示されます。</p> <p>この設定は基本認証方式と NTLMSP 認証方式の両方に適用されますが、特に基本認証方式の場合に役立ちます。基本認証方式では、ユーザ クレデンシャルがプレーン テキストで送信されるからです。</p> <p>詳細については、認証の失敗 (39 ページ) を参照してください。</p>
HTTPS リダイレクト ポート (HTTPS Redirect Port)	<p>HTTPS 接続を介してユーザ認証要求をリダイレクトする場合に使用する TCP ポートを指定します。</p> <p>これによって、クライアントが HTTPS による Web プロキシへの接続を開始するポートが指定されます。これは、クレデンシャルの暗号化がイネーブルになっている場合や、アクセス コントロールの使用時にユーザに認証を求める場合に発生します。</p>

設定	説明
リダイレクトホスト名 (Redirect Hostname)	<p>Web プロキシが着信接続をリッスンするネットワーク インターフェイスの短縮形のホスト名を入力します。</p> <p>上記の認証モードをイネーブルにすると、Web プロキシは、ユーザの認証のためにクライアントに送信するリダイレクション URL でこのホスト名を使用します。</p> <p>以下の値のいずれかを入力できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [1 語のホスト名 (Single word hostname)]。クライアントと Web セキュリティ アプライアンスが DNS 解決可能な 1 語のホスト名を入力できます。これにより、クライアントは、ブラウザ側を設定することなく、Internet Explorer で真のシングル サインオンを実現できます。必ず、クライアントと Web セキュリティ アプライアンスが DNS 解決可能な 1 語のホスト名を入力してください。たとえば、クライアントがドメイン mycompany.com にあり、Web プロキシがリッスンしているインターフェイスに完全なホスト名 proxy.mycompany.com が設定されている場合、このフィールドには proxy と入力する必要があります。クライアントはプロキシに対してルックアップを実行し、proxy.mycompany.com を解決できます。 • [完全修飾ドメイン名 (FQDN) (Fully qualified domain name (FQDN))]。このフィールドに、FQDN または IP アドレスを入力することもできます。ただし、その場合、Internet Explorer や Firefox ブラウザで真のシングル サインオンを実現するには、入力する FQDN または IP アドレスが、クライアントブラウザのクライアント信頼済みサイトリストに追加されていることを確認する必要があります。デフォルト値は、プロキシトラフィックに使用されるインターフェイスに応じて、M1 または P1 インターフェイスの FQDN です。
クレデンシャル キャッシュ オプション: (Credential Cache Options:) サロゲートタイムアウト (Surrogate Timeout)	<p>クライアントに認証クレデンシャルを再度要求するまでに、Web プロキシが待機する時間を指定します。クレデンシャルを再度要求するまで、Web プロキシはサロゲートに保存された値 (IP アドレスまたは Cookie) を使用します。</p> <p>一般的に、ブラウザなどのユーザ エージェントでは、ユーザが毎回クレデンシャルを入力する必要がないように、認証クレデンシャルがキャッシュされます。</p>

設定	説明
<p>クレデンシャル キャッシュ オプション: (Credential Cache Options:)</p> <p>クライアント IP アイドル タイムアウト (Client IP Idle Timeout)</p>	<p>IP アドレスを認証サロゲートとして使用する場合は、この設定で、クライアントがアイドル状態のときに、認証クレデンシャルをクライアントに再要求するまで Web プロキシが待機する時間を指定します。</p> <p>この値がサロゲート タイムアウト値よりも大きい場合、この設定には効力がなく、サロゲート タイムアウトに達した後にクライアントへの認証要求が行われます。</p> <p>この設定を使用すると、コンピュータの前にはいない時間が多いユーザの脆弱性を低減できます。</p>
<p>クレデンシャル キャッシュ オプション: (Credential Cache Options:)</p> <p>キャッシュ サイズ (Cache Size)</p>	<p>認証キャッシュに格納するエントリの数を指定します。この値を設定すると、実際にこのデバイスを使用しているユーザの数に安全に対応できます。デフォルト値は推奨されている設定です。</p>
<p>ユーザ セッション制限 (User Session Restrictions)</p>	<p>認証済みユーザが複数の IP アドレスから同時にインターネットにアクセスすることを許可するかどうかを指定します。</p> <p>ユーザが未認証ユーザと認証クレデンシャルを共有しないように、1つのマシンへのアクセスを制限できます。ユーザが別のマシンでログインできない場合は、エンドユーザ通知ページが表示されます。このページの [再認証 (Re-authentication)] 設定を使用し、ユーザがボタンをクリックして別のユーザ名でログインできるかどうかを指定することもできます。</p> <p>この設定をイネーブルにする場合は、制限タイムアウト値を入力します。この値によって、別の IP アドレスでマシンにログインできるようになるまでのユーザの待機時間を指定します。制限タイムアウト値は、サロゲートタイムアウト値よりも大きい値でなければなりません。</p> <p>authcache CLI コマンドを使用して、認証キャッシュから特定のユーザやすべてのユーザを削除できます。</p>
<p>詳細設定 (Advanced)</p>	<p>クレデンシャルの暗号化またはアクセス コントロールを使用している場合は、アプライアンスがそれに付属しているデジタル証明書とキー (Cisco IronPort Web セキュリティアプライアンス デモ証明書) を使用するか、ここでアップロードするデジタル証明書を使用するかを選択できます。</p> <p>デジタル証明書とキーをアップロードするには、[参照 (Browse)] をクリックして、ローカルマシン上の必要なファイルに移動します。次に、目的のファイルを選択してから、[ファイルのアップロード (Upload Files)] をクリックします。</p>

ステップ6 変更を送信し、保存します。

認証シーケンス

- [認証シーケンスについて \(37 ページ\)](#)
- [認証シーケンスの作成 \(38 ページ\)](#)
- [認証シーケンスの編集および順序変更 \(38 ページ\)](#)
- [認証シーケンスの削除 \(39 ページ\)](#)

認証シーケンスについて

認証シーケンスを使用すると、さまざまな認証サーバやプロトコルで1つのIDによってユーザを認証できます。認証シーケンスは、プライマリ認証オプションを使用できなくなった場合にバックアップ オプションを提供する上でも役立ちます。

認証シーケンスは複数の認証レルムの集合です。使用するレルムには、さまざまな認証サーバや認証プロトコルを指定できます。認証レルムの詳細については、[認証レルム \(15 ページ\)](#)を参照してください。

2番目の認証レルムを作成すると、[ネットワーク (Network)] > [認証 (Authentication)] に、[すべてのレルム (All Realms)] というデフォルトの認証シーケンスを含む [レルム シーケンス (Realm Sequences)] セクションが自動的に表示されます。[すべてのレルム (All Realms)] シーケンスには、ユーザが定義した各レルムが自動的に含まれます。[すべてのレルム (All Realms)] シーケンス内のレルムの順序は変更できますが、[すべてのレルム (All Realms)] シーケンスを削除したり、そこからレルムを削除することはできません。

複数の NTLM 認証レルムを定義した場合、Web セキュリティ アプライアンスは、各シーケンスの1つの NTLM 認証レルムだけを NTLMSSP 認証方式で使用します。[すべてのレルム (All Realms)] シーケンスを含め、各シーケンス内から、NTLMSSP で使用する NTLM 認証レルムを選択できます。複数の NTLM レルムを NTLMSSP で使用するには、各レルムに対して個々に識別プロファイルを定義します。

認証で使用されるシーケンス内の認証レルムは、以下によって決まります。

- 使用される認証方式。通常これは、クライアントに入力したクレデンシャルタイプで指定されます。
- シーケンス内でのレルムの順序 (1つの NTLMSSP レルムだけを使用できるので、基本レルムのみ)。



ヒント

最適なパフォーマンスを得るには、1つのレルムを使用して同じサブネット上のクライアントを認証します。

認証シーケンスの作成

始める前に

- 複数の認証レルムを作成します（[認証レルム（15 ページ）](#)を参照）。
- Web セキュリティ アプライアンスがセキュリティ管理アプライアンスで管理されている場合は、異なる Web セキュリティ アプライアンス上の同名の認証レルムのプロパティが、各アプライアンスで定義されているプロパティと同一になるように設定しておきます。
- AsyncOS では、レルムを使用して認証を処理する際に、リストの先頭のレルムから順番に使用されることに注意してください。

ステップ 1 [ネットワーク (Network)] > [認証 (Authentication)] を選択します。

ステップ 2 [シーケンスを追加 (Add Sequence)] をクリックします。

ステップ 3 英数字とスペース文字を使用して、シーケンスの一意の名前を入力します。

ステップ 4 [基本スキームのレルムシーケンス (Realm Sequence for Basic Scheme)] 領域の最初の行で、シーケンスに含める最初の認証レルムを選択します。

ステップ 5 [基本スキームのレルム シーケンス (Realm Sequence for Basic Scheme)] 領域の 2 番目の行で、シーケンスに含める以下のレルムを選択します。

ステップ 6 (任意) 基本クレデンシャルを使用する他のレルムを追加するには、[行の追加 (Add Row)] をクリックします。

ステップ 7 NTLM レルムを定義したら、[NTLMSSP スキームのレルム (Realm for NTLMSSP Scheme)] フィールドで NTLM レルムを選択します。

Web プロキシは、クライアントが NTLMSSP 認証クレデンシャルを送信するときに、この NTLM レルムを使用します。

ステップ 8 変更を送信し、保存します。

認証シーケンスの編集および順序変更

ステップ 1 [ネットワーク (Network)] > [認証 (Authentication)] を選択します。

ステップ 2 編集または順序変更するシーケンスの名前をクリックします。

ステップ 3 レルムを配置するシーケンス内の位置番号に対応する行で、[レルム (Realms)] ドロップダウン リストからレルム名を選択します。

(注) [すべてのレルム (All Realms)] シーケンスの場合は、レルムの順序のみを変更できます。レルム自体を変更することはできません。[すべてのレルム (All Realms)] シーケンス内のレルムの順序を変更するには、[順序 (Order)] 列の矢印をクリックして、該当するレルムの位置を変更します。

ステップ4 すべてのレルムをリストして順序付けするまで、必要に応じてステップ3を繰り返し、各レルム名が1つの行にのみ表示されていることを確認します。

ステップ5 変更を送信し、保存します。

認証シーケンスの削除

始める前に

認証レルムを削除すると関連するIDがディセーブルになり、さらに、関連するポリシーからそれらのIDが削除されるので注意してください。

ステップ1 [ネットワーク (Network)] > [認証 (Authentication)] を選択します。

ステップ2 シーケンス名に対応するゴミ箱アイコンをクリックします。

ステップ3 [削除 (Delete)] をクリックして、シーケンスを削除することを確定します。

ステップ4 変更を保存します。

認証の失敗

- [認証の失敗について \(39 ページ\)](#)
- [問題のあるユーザエージェントの認証のバイパス \(40 ページ\)](#)
- [認証のバイパス \(41 ページ\)](#)
- [認証サービスが使用できない場合の未認証トラフィックの許可 \(42 ページ\)](#)
- [認証失敗後のゲストアクセスの許可 \(42 ページ\)](#)
- [認証の失敗：異なるクレデンシャルによる再認証の許可 \(44 ページ\)](#)

認証の失敗について

以下の理由により認証に失敗したため、ユーザが Web からブロックされることがあります。

- **クライアント/ユーザエージェントの制限。**一部のクライアントアプリケーションでは、認証が適切にサポートされないことがあります。認証を必要としない識別プロファイルを設定し、識別プロファイルの基準をそのクライアント（およびアクセスする必要がある URL（任意））に基づかせることで、これらのクライアントの認証をバイパスできます。
- **認証サービスを使用できない。**ネットワークまたはサーバの問題によって、認証サービスを使用できない場合があります。このような状況が生じた場合に未認証トラフィックを許可することを選択できます。
- **クレデンシャルが無効である。**ユーザによっては、適切な認証を得るための有効なクレデンシャルを提供できないことがあります（ビジターやクレデンシャルを待っているユーザ

など)。そのようなユーザに制限付きの Web アクセスを許可するかどうかを選択できます。

関連項目

- 問題のあるユーザ エージェントの認証のバイパス (40 ページ)
- 認証のバイパス (41 ページ)
- 認証サービスが使用できない場合の未認証トラフィックの許可 (42 ページ)
- 認証失敗後のゲスト アクセスの許可 (42 ページ)

問題のあるユーザ エージェントの認証のバイパス

一部のユーザ エージェントには、通常の動作に影響する認証問題があることが判明されています。

以下のユーザ エージェント経由で認証をバイパスする必要があります。

- Windows Update エージェント
- MICROSOFT_DEVICE_METADATA_RETRIEVAL_CLIENT
- Microsoft BITS
- SLSSoapClient
- Akamai NetSession Interface
- Microsoft CryptoAPI
- NCSI
- MSDW
- Gnotify
- msde
- Google Update



(注) トラフィックのフィルタリング (URL カテゴリに基づく) とスキャン (McAfee、Webroot) は、引き続き、アクセス ポリシー設定に従い、アクセス ポリシーによって実行されます。

ステップ 1 指定したユーザ エージェントとの認証をバイパスするように識別プロファイルを設定します。

- a) [Web セキュリティ マネージャ (Web Security Manager)] > [識別プロファイル (Identification Profile)] を選択します。
- b) [識別プロファイルの追加 (Add Identification Profile)] をクリックします。
- c) 情報を入力します。

オプション	値
名前 (Name)	ユーザ エージェントの AuthExempt 識別プロファイル。
上に挿入 (Insert Above)	処理順序の最初のプロファイルに設定します。

オプション	値
サブネット別メンバの定義 (Define Members by Subnet)	ブランクのままにします。
認証ごとにメンバを定義 (Define Members by Authentication)	認証は不要です。

- d) [詳細設定 (Advanced)] > [ユーザ エージェント (User Agents)] をクリックします。
- e) [選択なし (None Selected)] をクリックします。
- f) [カスタムユーザエージェント (Custom User Agents)] で、問題のあるユーザ エージェントの文字列を指定します。

ステップ2 アクセス ポリシーの設定

- a) [Web セキュリティ マネージャ (Web Security Manager)] > [アクセス ポリシー (Access Policies)] を選択します。
- b) [ポリシーを追加 (Add Policy)] をクリックします。
- c) 情報を入力します。

オプション	値
ポリシー名	ユーザ エージェントの認証免除
上記ポリシーを挿入 (Insert Above Policy)	処理順序の最初のポリシーに設定します。
識別プロファイル ポリシー (Identification Profile Policy)	ユーザ エージェントの AuthExempt 識別プロファイル。
詳細設定 (Advanced)	なし

ステップ3 変更を送信し、保存します。

認証のバイパス

	手順	詳細情報
1	[詳細設定 (Advanced)] プロパティを設定して、影響を受ける Web サイトを含むカスタム URL カテゴリを作成します。	カスタム URL カテゴリの作成および編集

	手順	詳細情報
2	以下の特性を持つ識別プロファイルを作成します。 <ul style="list-style-type: none"> • 認証を必要とする ID が特に配置されている。 • カスタム URL カテゴリが含まれている。 • 影響を受けるクライアント アプリケーションが含まれている。 • 認証を必要としない。 	ユーザおよびクライアントソフトウェアの分類
3	識別プロファイルのポリシーを作成します。	ポリシーの作成

関連項目

- Web プロキシのバイパス

認証サービスが使用できない場合の未認証トラフィックの許可



- (注) この設定は、認証サービスを使用できない場合にのみ適用されます。恒久的に認証をバイパスするわけではありません。代替の方法については、[認証の失敗について \(39 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 1 [ネットワーク (Network)] > [認証 (Authentication)] を選択します。

ステップ 2 [グローバル設定を編集 (Edit Global Settings)] をクリックします。

ステップ 3 [認証サーバが利用できない場合のアクション (Action if Authentication Service Unavailable)] フィールドで、[認証なしでトラフィックの通過を許可 (Permit traffic to proceed without authentication)] をクリックします。

ステップ 4 変更を送信し、保存します。

認証失敗後のゲスト アクセスの許可

ゲストアクセスを許可するには、次の手順を実行する必要があります。

1. [ゲストアクセスをサポートする識別プロファイルの定義 \(43 ページ\)](#)
2. [ゲストアクセスをサポートしている識別プロファイルのポリシーでの使用 \(43 ページ\)](#)
3. (任意) [ゲストユーザの詳細の記録方法の設定 \(44 ページ\)](#)



- (注) 識別プロファイルがゲストアクセスを許可しており、その識別プロファイルを使用しているユーザ定義のポリシーがない場合、認証に失敗したユーザは適切なポリシータイプのグローバルポリシーと照合されます。たとえば、MyIdentificationProfile がゲストアクセスを許可し、MyIdentificationProfile を使用するユーザ定義のアクセスポリシーがない場合、認証に失敗したユーザはグローバルアクセスポリシーに一致します。ゲストユーザをグローバルポリシーと照合しない場合は、ゲストユーザに適用してすべてのアクセスをブロックするポリシーグループを、グローバルポリシーよりも上に作成します。

ゲストアクセスをサポートする識別プロファイルの定義

- ステップ 1** [Web セキュリティ マネージャ (Web Security Manager)] > [識別プロファイル (Identification Profiles)] を選択します。
- ステップ 2** [識別プロファイルの追加 (Add Identification Profile)] をクリックして新しい ID を追加するか、使用する既存の ID の名前をクリックします。
- ステップ 3** [ゲスト権限をサポート (Support Guest Privileges)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** 変更を送信し、保存します。

ゲストアクセスをサポートしている識別プロファイルのポリシーでの使用

- ステップ 1** [Web セキュリティ マネージャ (Web Security Manager)] メニューからポリシー タイプを選択します。
- ステップ 2** ポリシー テーブル内のポリシー名をクリックします。
- ステップ 3** [識別プロファイルおよびユーザ (Identification Profiles And Users)] ドロップダウンリストから、[1 つ以上の識別プロファイルを選択 (Select One Or More Identification Profiles)] を選択します (まだ選択していない場合)。
- ステップ 4** [識別プロファイル (Identification Profile)] 列のドロップダウンリストから、ゲストアクセスをサポートしているプロファイルを選択します。
- ステップ 5** [ゲスト (認証に失敗したユーザ) (Guests (Users Failing Authentication))] オプション ボタンをクリックします。
- (注) このオプションを使用できない場合は、選択したプロファイルがゲストアクセスをサポートするように設定されていないことを示しています。ステップ 4 に戻って別のものを選択するか、[ゲストアクセスをサポートする識別プロファイルの定義 \(43 ページ\)](#) を参照して、新しいポリシーを定義してください。
- ステップ 6** 変更を送信し、保存します。

ゲストユーザの詳細の記録方法の設定

ステップ1 [ネットワーク (Network)] > [認証 (Authentication)] を選択します。

ステップ2 [グローバル設定を編集 (Edit Global Settings)] をクリックします。

ステップ3 [失敗した認証手続き (Failed Authentication Handling)] フィールドで、次に示す [ゲストユーザのログ方法 (Log Guest User By)] のオプション ボタンをクリックします。

オプション ボタン	説明
[IPアドレス (IP Address)]	ゲストユーザのクライアント IP アドレスがアクセス ログに記録されます。
[エンドユーザが入力したユーザ名 (User Name As Entered By End-User)]	最初に認証に失敗したユーザ名がアクセス ログに記録されます。

ステップ4 変更を送信し、保存します。

認証の失敗：異なるクレデンシャルによる再認証の許可

- [異なるクレデンシャルによる再認証の許可について \(44 ページ\)](#)
- [異なるクレデンシャルによる再認証の許可 \(44 ページ\)](#)

異なるクレデンシャルによる再認証の許可について

前に使用したクレデンシャルが認証に失敗した場合に、ユーザが別のクレデンシャルを使用して再認証を受けることを許可するには、再認証機能を使用します。ユーザは正常に認証されますが、アクセスが許可されない限り、Web リソースにはアクセスできません。これは、認証は、検証したクレデンシャルをポリシーに渡すためにユーザを識別するだけであり、リソースへのユーザのアクセスを許可（または禁止）するのはポリシーだからです。

再認証を受けるには、ユーザは正常に認証されている必要があります。

- ユーザ定義のエンドユーザ通知ページで再認証機能を使用するには、リダイレクト URL を解析する CGI スクリプトで Reauth_URL パラメータを解析して使用する必要があります。

異なるクレデンシャルによる再認証の許可

ステップ1 [ネットワーク (Network)] > [認証 (Authentication)] を選択します。

ステップ2 [グローバル設定を編集 (Edit Global Settings)] をクリックします。

ステップ 3 [URL カテゴリまたはユーザセッションの制限によりエンドユーザがブロックされた場合に再認証プロンプト (Re-Authentication Prompt If End User Blocked by URL Category or User Session Restriction)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 4 [送信 (Submit)] をクリックします。

識別済みユーザの追跡



(注) アプライアンスがクッキーベースの認証サロゲートを使用するように設定されている場合、アプライアンスは HTTP 要求を介した HTTPS および FTP のクライアントからクッキー情報を取得しません。このため、クッキーからユーザ名を取得できません。

明示的要求でサポートされる認証サロゲート

サロゲートタイプ	クレデンシャルの暗号化がディセーブルの場合			クレデンシャルの暗号化がイネーブルの場合			
	[プロトコル (Protocol)]:	HTTP	HTTPS および FTP over HTTP	ネイティブ FTP	HTTP	HTTPS および FTP over HTTP	ネイティブ FTP
サロゲートなし		Yes	○	はい	NA	NA	NA
IP ベース		Yes	○	○	○	○	○
Cookie ベース		○	○***	○***	○	×/○**	○***

透過的要求でサポートされる認証サロゲート



(注) [ユーザおよびクライアントソフトウェアの分類](#)の [認証サロゲート (Authentication Surrogates)] オプションの説明も参照してください。

サロゲートタイプ	クレデンシャルの暗号化がディセーブルの場合			クレデンシャルの暗号化がイネーブルの場合			
	[プロトコル (Protocol)]:	HTTP	HTTPS	ネイティブ FTP	HTTP	HTTPS	ネイティブ FTP
		Yes	○	○	○	○	○

サロゲート タイプ	クレデンシャルの暗号化がディセーブルの場合			クレデンシャルの暗号化がイネーブルの場合		
	NA	NA	NA	NA	NA	NA
サロゲートなし						
IP ベース	○	×/○*	×/○*	○	×/○*	×/○*
Cookie ベース	○	×/○**	×/○**	○	×/○**	×/○**

*クライアントがHTTPサイトに要求を送信し、認証された後に機能します。その前の動作は、トランザクションタイプによって異なります。

- **ネイティブ FTP トランザクション。** トランザクションが認証をバイパスします。
- **HTTPS トランザクション。** トランザクションがドロップされます。ただし、認証を目的とする最初の HTTPS 要求を復号化するように HTTPS プロキシを設定できます。

** Cookie ベースの認証を使用している場合、Web プロキシは、HTTPS、ネイティブ FTP、および FTP over HTTP の各トランザクションに対してユーザを認証できません。この制限により、すべての HTTPS、ネイティブ FTP、FTP over HTTP の要求が認証をバイパスするため、認証は要求されません。

*** この場合は、Cookie ベースのサロゲートが設定されていても、サロゲートは使用されません。

関連項目

- [識別プロファイルと認証](#)

再認証ユーザの追跡

再認証の場合、より強力な権限を持つユーザが認証を求め承認されると、Web プロキシは、設定されている認証サロゲートに応じた期間だけこのユーザの ID をキャッシュします。

- **[セッション Cookie (Session cookie)]**。特権ユーザのアイデンティティが、ブラウザを閉じるか、セッションがタイムアウトになるまで使用されます。
- **[永続的な Cookie (Persistent cookie)]**。特権ユーザのアイデンティティが、サロゲートがタイムアウトするまで使用されます。
- **[IP アドレス (IP Address)]**。特権ユーザのアイデンティティが、サロゲートがタイムアウトするまで使用されます。
- **[サロゲートなし (No surrogate)]**。デフォルトでは、Web プロキシは新しい接続ごとに認証を要求しますが、再認証がイネーブルの場合は新しい要求ごとに認証を要求します。そのため、NTLMSSPを使用すると認証サーバの負荷が増大します。ただし、認証アクティビティの増加はユーザにはわからない場合があります。ほとんどのブラウザでは、ブラウザが閉じられるまで特権ユーザのクレデンシャルがキャッシュされ、再入力を求めることなく認証が行われるからです。また、Web プロキシが透過モードで展開され、[明示的転送要求に同じサロゲート設定を適用 (Apply same surrogate settings to explicit forward requests)]

オプションがイネーブルでない場合は、明示的な転送要求に認証サロゲートが使用されず、再認証により負荷が増加します。



(注) Web セキュリティ アプライアンスが認証サロゲートに Cookie を使用する場合は、クレデンシャルの暗号化をイネーブルにすることを推奨します。

資格情報

認証クレデンシャルは、ユーザのブラウザまたは別のクライアントアプリケーションを介してユーザに認証クレデンシャルの入力を求めることによってユーザから取得されるか、または別のソースから透過的に取得されます。

- [セッション中のクレデンシャルの再利用の追跡 \(47 ページ\)](#)
- [認証および承認の失敗 \(48 ページ\)](#)
- [クレデンシャルの形式 \(48 ページ\)](#)
- [基本認証のクレデンシャルの暗号化 \(48 ページ\)](#)

セッション中のクレデンシャルの再利用の追跡

セッション中に 1 回ユーザを認証した後、認証サロゲートを使用すると、新しい要求ごとにユーザを認証するのではなく、そのセッション全体におけるクレデンシャルの再利用を追跡できます。認証サロゲートは、ユーザのワークステーションの IP アドレスまたはセッションに割り当てられた Cookie に基づくことができます。

Internet Explorer の場合は、リダイレクト ホスト名として、完全修飾ドメイン名ではなく、(ドットを含まない) 短縮形のホスト名または NetBIOS 名を必ず使用してください。または、Internet Explorer の [ローカルイントラネット] ゾーンにアプライアンスのホスト名を追加することができます ([ツール] > [インターネット オプション] > [セキュリティ] タブ)。ただし、この操作をすべてのクライアントで実行する必要があります。これに関する詳細については、『[How do I properly set up NTLM with SSO \(credentials sent transparently\)?](#)』を参照してください。

Firefox およびその他の Microsoft 以外のブラウザでは、パラメータ **network.negotiate-auth.delegation-uris**、**network.negotiate-auth.trusted-uris**、**network.automatic-ntlm-auth.trusted-uris** を透過モードのリダイレクト ホスト名に設定する必要があります。『[Firefox is not sending authentication credentials transparently \(SSO\)](#)』も参照してください。この [記事](#) には、Firefox パラメータの変更に関する一般情報が記載されています。

リダイレクト ホスト名については、[グローバル認証の設定 \(30 ページ\)](#)、または CLI コマンド `sethostname` を参照してください。

認証および承認の失敗

互換性のないクライアントアプリケーションなど、容認できる理由で認証に失敗した場合は、ゲストアクセスを許可できます。

認証に成功したが、承認に失敗した場合は、要求したリソースへのアクセスが許可される可能性がある別のクレデンシャルセットによる再認証を許可できます。

関連項目

- [認証失敗後のゲストアクセスの許可 \(42 ページ\)](#)
- [異なるクレデンシャルによる再認証の許可 \(44 ページ\)](#)

クレデンシャルの形式

認証方式	クレデンシャルの形式
NLMSSP	MyDomain\jsmith
基本	jsmith MyDomain\jsmith (注) ユーザが Windows ドメインを入力しなかった場合は、Web プロキシによってデフォルトの Windows ドメインが付加されます。

基本認証のクレデンシャルの暗号化

基本認証のクレデンシャルの暗号化について

暗号化した形式でクレデンシャルを HTTPS 経由で送信するには、クレデンシャルの暗号化をイネーブルにします。これによって、基本認証プロセスのセキュリティが向上します。

Web セキュリティ アプライアンスは認証の安全を確保するために、デフォルトで自身の証明書と秘密キーを使用してクライアントとの HTTPS 接続を確立します。ただし、大部分のブラウザでは、この証明書が無効であることがユーザに警告されます。無効な証明書に関するメッセージをユーザに表示しないようにするには、組織で使用している有効な証明書とキーのペアをアップロードします。

クレデンシャル暗号化の設定

始める前に

- IP サロゲートを使用するようにアプライアンスを設定します。
- (任意) 証明書と暗号化された秘密キーを取得します。ここで設定した証明書とキーは、アクセスコントロールでも使用されます。

-
- ステップ 1** [ネットワーク (Network)]>[認証 (Authentication)] を選択します。
- ステップ 2** [グローバル設定を編集 (Edit Global Settings)] をクリックします。
- ステップ 3** [クレデンシャルの暗号化 (Credential Encryption)] フィールドで、[認証には暗号化された HTTPS 接続を使用 (Use Encrypted HTTPS Connection For Authentication)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** (任意) 認証時のクライアントの HTTPS 接続に対して、[HTTPSリダイレクトポート (HTTPS Redirect Port)] フィールドでデフォルトのポート番号 (443) を編集します。
- ステップ 5** (任意) 証明書とキーをアップロードします。
- [詳細設定 (Advanced)] セクションを展開します。
 - [証明書 (Certificate)] フィールドで [参照 (Browse)] をクリックし、アップロードする証明書ファイルを検索します。
 - [キー (Key)] フィールドで [参照 (Browse)] をクリックし、アップロードする秘密キー ファイルを検索します。
 - [ファイルのアップロード (Upload File)] をクリックします。
- ステップ 6** 変更を送信し、保存します。
-

次のタスク

関連項目

- [証明書管理 \(Certificate Management\)](#) 。

認証に関するトラブルシューティング

- [NTLMSSP に起因する LDAP ユーザの認証の失敗](#)
- [LDAP 参照に起因する LDAP 認証の失敗](#)
- [基本認証の失敗](#)
- [エラーによりユーザがクレデンシャルを要求される](#)
- [HTTPS および FTP over HTTP 要求が、認証を必要としないアクセス ポリシーにのみ一致する](#)
- [認証をサポートしていない URL にアクセスできない](#)
- [クライアント要求がアップストリーム プロキシで失敗する](#)

